

過大規模校における若手研修会の構築

ー 自主・自律をめざしたミドルリーダーの役割 ー

学籍番号 189963
氏名 森 慎弥
主指導教員 長谷川 和弘

1. 研究の背景と問題の所在

1.1 節 社会的背景

大阪市立小学校における児童数の増減について社会的背景を踏まえながら言及する。環状線の内側とその周辺に位置する区の増加率とそれ以外の区での増加率を明らかにしながら児童数の増減について考える。

1.2 節 事例校Xの現状と課題

(1) 事例校Xの学校規模では、はじめに事例校Xの概要について言及する。そして、事例校Xの児童数と学級数の移り変わりについて考えながら一般的な過大規模校の長所と短所について詳述する。

(2) 事例校Xの校務分掌では、児童数の増加に伴い過大規模校となった事例校Xの校務分掌の工夫について言及する。児童数が増えるとともに教職員の数も増え、いわゆる一般的な校務分掌では、機能不全に陥った。そこで、課題別のプロジェクトに組織を編成しなおしたことについて詳述する。

(3) 事例校Xの若手研修会「四つ葉会」については、事例校Xの若手教員の授業力・学級経営力など力量の向上のために行ってきた若手研修会「四つ葉会」について言及する。過大規模校となった事例校Xでの若手研修会「四つ葉会」の現状について詳述する。

(4) 過大規模校化する事例校Xの若手研修会「四つ葉会」における問題の所在では、過大規模校となった事例校Xの若手研修会「四つ葉会」の課題について言及する。意識調査の結果をもとに若手研修会「四つ葉会」の問題の所在について詳述する。

2. 先行研究

2.1 節 協働性

過大規模校となった事例校Xの若手研修会の現状と課題から、「協働性」の必要性を感じたことから、「協働性」をキーワードに先行研究について整理する。

2.2 節 ミドルリーダー

過大規模校となった事例校Xの若手研修会の現状と課題を打破するために、ミドルリーダーの成長の必要性を感じ、「ミドルリーダー」の先行研究にあたり、ミドルリーダーの役割と働きについて整理した。

2.3 節 校内研究

若手教員の力量形成のために若手研修会「四つ葉会」がうまく機能するためにはどうすればよい

のか考えるために、「校内研究」の視点から整理し言及する。

3. 研究の目的と計画

3.1 節 研究の目的

過大規模校において、しかも若手教員の占める割合が多いような事例校Xにおいて、どのようにすれば、自主・自律した若手教員を育成できるのかについて言及したい。また、自主・自律した若手教員とは何かについても詳述する。そして、若手教員の自主・自律を促進するための方向性について論じる。

3.2 節 研究の計画と実践

(1) 1年次の計画では、若手研修会「四つ葉会」の企画・運営に関する計画について言及する。

(2) 1年次の実践では、若手研修会「四つ葉会」の実践について言及する。「若手研修会の調査と現状の課題把握」、「若手研修会内におけるミドルリーダーの役割の確立」、「若手研修会における研修計画の策定」、「若手研修会における研修計画の提案と修正」の実践について詳述する。

(3) 2年次の計画では、若手研修会「四つ葉会」の2年次の企画・運営に関する計画について言及する。

(4) 2年次の実践では、自主・自律を高める3つの要素「やりがいを感じる」、「目的意識を持つ」、「困り感を解消する」取り組みについて言及する。「目的別小グループのチーム編成の決定と研修スタート」、「各チームの取り組みの共有と中間の振り返り」、「目的別小グループのリーダーで研修計画の修正とまとめ方についての共通理解を図る」の実践について詳しく述べる。

4. 結果と考察

4.1 節 四つ葉会の研修について

目的別小グループごとに若手研修会「四つ葉会」を進めてきた。その取り組みを評価するために四つ葉研修会推進に関わる意識調査を2年間、四つ葉会に所属した教員、新しく赴任した1年目の教員それぞれに実施した。さらに、校長や研究主任、学年主任へのインタビュー調査から結果の考察について述べる。

4.2 節 四つ葉リーダー会について

四つ葉リーダー会を行ってきたが、若手研修会「四つ葉会」にどのような効果があったのか、リーダーたちへのインタビュー調査を通して考察する。

4.3 節 ミドルリーダーの役割と働き

課題規模校におけるミドルリーダーの役割と働きについて言及する。特に、若手教員の自主性や自主・自律した態度の向上に自身のコーディネートがどのようにつながったのか整理する。

4.4 節 成果と今後の課題

本実践研究の成果と課題について、言及する。さらに、どのようにすれば課題を克服できるのか、改善案についても述べる。